

Q：時間を量としてとらえさせるのが難しく、特に分が入ったり、午前・午後にまたいだときは理解度が低くなります。どのように指導すればよいでしょうか。【3年】

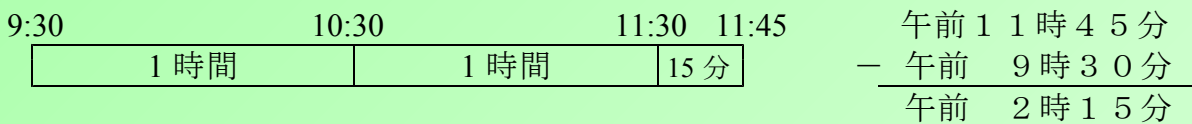
A：時刻と時間の区別，1日＝24時間，午前・午後とも12時間，1時間＝60分，1分＝60秒などの基本的な関係をしっかり理解させてから指導してください。

時間の概念は視覚的にとらえにくいいため，実感しにくいものです。また，時刻と時間をあいまいにとらえている児童も多く，教師自身も「今の時刻は何時か？」と言うべきところを「今の時間は何時か？」と言い間違えたりします。

最近の時計はデジタル表示のものが多く，時刻や時間を数値としてとらえることはできても，量概念として理解できないことが考えられます。そこで，アナログ時計を使用して，時計の動きと絡めながら基本的な関係を学ばせてください。メトロノームに合わせて手を叩いたり，1分あてゲームなどの活動を通して秒や分などの量感覚をつかませるのも一つの方法です。

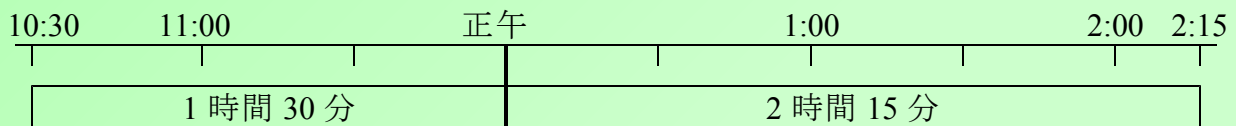
さらに，テープ図を用いて時間が長さで表現できることを実感させて，時間を量としてとらえられるようにしましょう。

例えば「午前9時30分から午前11時45分までの時間」をひき算として計算する前に，テープ図で1時間，1時間，15分と分けて表示して，「午前9時30分から2時間で午前11時30分となり，さらに15分たつと午前11時45分になる。」という考え方を大切にしてください。



(午前・午後にまたがる計算)

「午前10時30分から午後2時15分までの時間をもとめましょう」という問題では，まずは正午まで(午前)と正午から(午後)に分けて計算します。ここでは，午前の計算が難しいですが，時計を使用してテープ図に表し時間の流れが1つの線で表現できることを理解させます。慣れてきたら，下の図のように午前と午後を合わせると繰り返されるパターンも取り入れてください。



合わせると，3時間45分

午前と午後に分けて考えることができたなら，次は午前・午後という分け方をなくして，ひと続きの時間としてとらえて計算します。午後2時を14時と考えることです。

電車の時刻表など，12時以降を13時，14時，・・・と表現する方法もあることを知らせ，正午という基準を考えなければ1回の計算でも答えが求められることを学習します。しかし，はじめからこの方法で計算すると，午前・午後・正午の関係を押さえられなくなるので，段階を経て学習させてください。